

子供たちが語る「田辺市地域語り部ジュニア」

田辺市教育委員会

1. はじめに

田辺市は紀伊半島の南西部、和歌山県の南部に位置している。太平洋に面した田辺湾を臨み、黒潮の影響により、比較的温暖な地域である。人口は約7万4千人で西よりの海岸部に都市的地域を形成するほかは、森林が大半を占める中山間地域が広がり、総面積は1026.91㎢と広大である。

平成16年7月7日、「紀伊山地の霊場と参詣道」がユネスコの世界遺産として登録された。和歌山県・奈良県・三重県にまたがる3つの霊場(熊野三山、高野山、吉野・大峰)とそこに至る参詣道(熊野参詣道・高野町石道・大峰奥駆道)及びそれを取り巻く文化的景観が主役である。田辺市は、この世界遺産の中心に位置している。

2. 教育目標

田辺市教育委員会では「未来につながる資質・能力の育成」「学社融合活動の内容充実」を学校教育推進の2本柱としている。「学社融合」とは学校教育と社会教育が一体となって学習の場、活動などをつくり、地域の教育力と学校の教育力を相互に活用する取組のことである。「田辺市地域語り部ジュニア」についても、学社融合の取組の1つとして行っている。田辺市にある世界遺産をはじめとする地域資源について学習することにより、ふるさとを愛し、地域に誇りをもった子供を育成することを目標としている。

3. 教育委員会・学校での取組

○教育委員会の取組

田辺市教育委員会では、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録10周年の記念の年を迎えた平成26年から、「熊野古道」を校区に抱える小・中学校が、「熊野古道」と王子跡などを再度見つめ直して学習するとともに、その内容を保護者や地域の方々、またそれぞれの地域を訪れた方々に語り継ぐ、「田辺市熊野古道語り部ジュニア」の活動を始めた。翌年からは「熊野古道」に限定せず、校区の地域資源や産業について語れる子供の育成を目指し、名称は「田辺市地域語り部ジュニア」と改めて、市内全ての小・中学校において、語り部活動を実施している。

○第14回世界遺産学習全国サミット in たなべ

今年度は、「第14回世界遺産学習全国サミット in たなべ」を本市で開催した。今回のサミットでは、「悠久の時をめぐり ここ熊野古道から 未来へつながる道を考えよう」をテーマとし、全国の教育関係者が集い、「田辺市地域語り部ジュニア活動」を中心にESD・SDGs・ふるさと学習・環境教育の実践交流を行った。(詳細は、実施報告書に記載)



○令和5年度世界遺産学習連絡協議会 学校間交流

【田辺市立三里小学校】

三里小学校は、「心豊かにたくましく生きる児童の育成」を教育目標とし、令和5年度は「つながれ ひろがれ 本宮の魅力」を研究テーマに「ICTを活用した対話的で深い学び」と「三里大好き！（ふるさと）学習」の取組を推進している。

今回、世界遺産学習全国サミットでの発表以外にも、世界遺産学習連絡協議会によるマッチングにより、屋久島町立栗生小学校と計3回オンラインで交流した。栗生小学校からは、ウミガメを80匹、海に放流した話や、地域の名産「たんかん（柑橘類）」や「こきろんぼ（こうき芋）」について調べ学習をした紹介があり、三里小学校は、お茶、牧場、釜餅の事業所を訪問した地域学習と語り部ジュニア活動の発表を紹介した。お互いに規模のよく似た学校であり、子ども達は自己紹介、学校紹介、地域の紹介などを行い、画面を通じて楽しく会話できた。



【田辺市立中辺路中学校】

中辺路中学校は「学ぶ喜び、生きる喜びにあふれた、心豊かでたくましい生徒を育てる」を教育目標とし、『子育て教育を地域と共に』ー地域と共に教育を創造できる学校づくりーを目指している。

今回、世界遺産学習連絡協議会によるマッチングにより、奈良市立都祁中学校と計3回オンラインで交流した。中辺路中学校は、自分たちの地域の魅力を知り、発信する活動をNVP（Nakahechi Vanguard Project）と名付け、全校生徒が8つの課に分かれて取り組んだ内容を発表した。和歌山県外の中学校とつながるこの機会は、生徒にとって新しく、そして貴重な体験になった。オンライン上でやりとりすることだけでなく、自分たちの取組をプレゼンしあうことで、相手校の取組に刺激を受け、自分たちの取組を見つめ直すことができた。また、相手校の先生や生徒の評価をもらうことで、自分たちの取組に自信を持つことができ、互いの地域の魅力に気づき、「自分たちの地域やそこにある世界遺産に誇りを持って、自分たちがそれらを受け継いでいく」という共通認識が芽生えたように感じた。



最後に、都祁中学校1年生が製作した「奈良カルタ」を記念としていただいた。そのカルタをそれぞれの学年で実際にやってみて、楽しむことができた。また、中辺路中学校が作り上げたHP等の二次元コードを伝えることでつながりができた。

4. おわりに

学校間交流では、ICTを活用することによって、遠方の学校との交流が実現し、それぞれが自分たちの地域の魅力や課題を伝えあうことで、自分たちだけでは気づけなかった地域や世界の課題に気づくことができた。また、今年度の第14回世界遺産学習全国サミット in たなべでの学びを生かし、「田辺市地域語り部ジュニア」を世界遺産学習、ESDと関連させて、田辺市独自の取組として発展・昇華させるとともに、熊野古道をはじめとする世界遺産を次の世代、そして未来につなげていけるよう、子供たちに必要とされる資質・能力の育成に努めたい。